

## 一般社団法人大学英語教育学会 平成 28 (2016) 年度事業計画

本学会は一般社団法人としての社会的責任と、研究・教育に対する良心的熱意を持って平成 28 (2016) 年度も活動を行う。グローバル社会に対応するべく専門家の観点から英語教育に関して情報や提言を発信していきたい。

**1 号事業:** 大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

### (1) 大学英語教育学会第 55 回 (2016 年度) 国際大会の開催

目的: 大会ごとにテーマを決定し、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックすることが大会の目的である。今回の大会では、「ボーダレス時代における英語教育をデザインする (Designing English Education in a Borderless Era)」という大会テーマを設定し、大学英語教育とその関連分野の理論・実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックする。当該調査・研究発表内容は会員が大学等の授業で実践することで、わが国の英語教育の向上と改善に資することを目的とする。

対象: 本学会の会員及び英語教育関係者、国内外の言語教育関係者など。

規模: 約 800 名。

広報: 会員に対しては、学会ウェブサイトと『JACET 通信』を通じて告知する。その他の英語教育関係者に対しては、学会ウェブサイトと、一般商業雑誌の学会情報 (『英語教育』など) を通じて行う。国内外の関係諸学会やマスコミ各社に「第 55 回 (2016 年度) 国際大会案内」を送付する。

成果: 会員には 12 月に発行される『JACET 通信』で全体報告と、基調講演、全体シンポジウム、招待講演などの報告が行われ、学会ウェブサイトに掲載される。この大会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となることが期待される。

### (2) セミナーの開催

#### ① サマーセミナーの開催

目的: テーマは“*Innovation in EAP: Exploring new directions for collaboration* (これからの EAP—新しい協働の方向性を探る—)”で国内外の講師による講義および公募による参加者のポスター発表も行うことで、互いに研鑽し合う場を提供することを目的とする。

対象: 当学会の会員・その他の英語教育関係者。

規模: 約 80 名。

広報: 会員に対してはメーリングリスト、案内文書を通じて告知する。案内を学会ウェブサ

イトに掲載するほか、『英語教育』、『英語青年』(ウェブサイト版)誌などで告知し、広く参加者を募集する。英語教育関係団体にも案内を送付する。

成果：本セミナーをきっかけに、特定テーマに関心をもつ参加者間の情報交換が活発なものとなる。

## ② 英語教育セミナーの開催

目的：英語教育関連の教材や指導法に関心のある、小学校、中学校、高校、大学等の英語教員および英語教育関係者が集まり、講演、質疑応答、討議を通じて、お互いの知見を深め実践に役だてる。グローバル化を見据えた英語教育の先進的取り組みについて小中高大の英語教育関係者間で情報の共有をはかり、今後の課題を議論する。協賛会員の協力を得て、教材の展示やデモンストレーション、ワークショップ等を行う。

対象：小中高大学英語教員および英語教育関係者

規模：約100(内学生20)人

広報：会員に対してはメーリングリスト、『JACET通信』を通じて告知する。案内を学会ウェブサイトに掲載するほか、月刊の『英語教育』などに掲載し広く参加者を募集する。英語教育関係団体に案内を送付する。会員を通じて学生に参加を促す。

成果：本セミナーをきっかけに、当該テーマに関心をもつ参加者が実践上の知見を広める機会となり、参加者間の交流を促し、将来ある学生の教育に寄与する。

## (3) 支部大会の開催

7つの支部(北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部)では、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に、年に一回は支部大会が開催される。

## (4) 支部研究会・支部講演会等の開催

それぞれの支部で、活発に研究会や講演会を開催する予定である。北海道支部研究会(北海道支部)、東北支部例会(東北支部)、関東支部月例研究会・講演会(関東支部)、支部定例研究会(中部支部)、関西支部講演会(関西支部)、支部イベント(中国・四国支部)、九州・沖縄支部学術講演会(九州・沖縄支部)などがある。

## 2号事業：紀要、学会誌等の出版物の刊行

### (1) 『紀要』の刊行

JACET『紀要』の刊行を行う。

目的：大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究成果を学会公認の論文誌として刊行することにより、わが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：会員・その他の英語教育関係者(国立国会図書館・大学基準協会・国立情報学研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会・海外提携学会等)。

規模：約 3,000 冊。刊行された出版物は、会員に配布し、発行 1 年後に公開され、学会の研究  
成果の公開及び普及啓発を行う。非会員に対しては実費相当額程度で有償配布をする。

広報：投稿規程は学会ウェブサイトと紀要 60 号巻末に掲載する。ウェブサイトにはテンプレ  
ートも掲載して投稿を促進する。

成果：投稿論文は独創性、構成・論理性、教育的意義等から総合的に審査される。採択率は毎  
回、2 分の 1 から 3 分の 1 程度であり、日本における英語教育のトップレベルの論文集  
であると自負するものである。また JACET 紀要への掲載は執筆者にとり大きな業績と  
なるのみならず、研究者同士の情報交換の場として更に活発な研究の促進が期待され  
る。海外に対し、日本の英語教育に関する最新事情を発信する場ともなる。

## (2) 『Selected Papers』の刊行および準備

目的：国際大会で口頭発表（ポスターも含む）した発表者の学術研究を推奨し、論文発表の機  
会を与える。英語教育や応用言語学における質的研究や量的研究など、様々な観点の論  
文が対象となる。海外の学会や言語教育関係者に対して日本の大学英語教育に関する  
教育の最前線について発信する。本年度は『Selected Papers』3 号（第 54 回（2015 年度）  
国際大会での口頭発表者が対象）を平成 28（2016）年 8 月に発行する。

対象：会員・世界中の英語教育関係者。

規模：オンライン版としてウェブサイトで発表する。

成果：本誌に掲載されることにより国際大会発表者の更なる業績となる上に、研究者同士の情  
報交換や議論の場として、研究の活性化を促進する。また、ウェブサイトで公開するこ  
とにより海外に対し日本の英語教育に関する最新事情を発信する。

## (3) 『JACET 通信』の刊行

目的：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を会員に紹介する。また、  
英語版により、英語を母語とする教員にも理解せしめる。また、世界に JACET の活  
動を知らしめることが可能となる。日本語版、英語版がある。

対象：学会員・その他の英語教育関係機関（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究  
所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会他）。学会のウ  
ェブサイトにも掲載するので一般の人々や海外からも見る事が可能である。

規模：会員全員および関係諸機関に配布。学会ウェブサイトにて掲載。

成果：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を紹介することにより、会  
員の大学英語教員としての意識を向上させることが可能となる。また、国内他学会か  
らの寄稿により、学際的な教育や研究の動向を知ることができる。

## (4) 支部紀要の刊行

7 つの支部－北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、  
九州・沖縄支部では、それぞれ支部紀要を刊行する。支部会員に研究発表の機会を提供し  
、関連分野の最新の研究論文や研究関連情報の提供により、研究活動を活性化させる支援  
を行う。

### **(5) 支部ニューズレターの刊行**

7つの支部－北海道支部，東北支部，関東支部，中部支部，関西支部，中国・四国支部，九州・沖縄支部では，支部ニューズレターを刊行し，支部活動の動向や英語教育に関する情報提供により支部会員間の情報交換の促進を行う。

## **3号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰**

### **(1) 大学英語教育学会賞の表彰**

目的：英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善に寄与した個人または団体に対して表彰を行うことにより，わが国の大学教員等の英語教育に対する意識を高めることを目的とする。

対象：学術出版，論文，研究開発，実践，新人発表，新人論文の6部門

規模：本賞は学会内に設置する選考委員会の選考を経て理事会が決定し国際大会で授賞する。受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈する。

成果：本賞は，受賞者に対しては研究者としての功績を称えることにより，研究活動に一層精進することを奨励することになり，一般会員に対しても本賞を目標として各自の研究を発展させることを導く要因となることが期待される。

## **4号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関との協力**

### **(1) 関係学術団体への派遣**

本学会から海外学術団体および国内の提携学会へ優れた英語教育関係者の派遣を行う。

目的：国内外の提携学会の大会へ講演者等として派遣され，本学会代表として参加することにより，関係諸学会との人的及び学術交流の促進を図る。

対象：学会社員又は理事

規模：海外9団体，RELC (Regional Language Centre)，KATE (The Korea Association of Teachers of English)，ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)，ETA-ROC (English Teachers Association of the Republic of China)，MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)，PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)，AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée)，Thai TESOL (Thailand TESOL)，CELEA (China English Language Education Association)  
国内1団体，JALT (全国語学教育学会) が対象。

成果：学会として国内外の他学会との学術交流を行い，情報交換を活発にして研究活動を促進する。さらにその成果は学会ウェブサイトや『JACET 通信』に掲載され，本学会が国内外に認知されていることを，会員および国内外の英語教育関係者に知らせることになる。

## **5号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究**

## (1) 全国レベルの調査研究

### ① 第4次実態調査研究

目的：会員が所属する大学・短大などでの英語教育の実態を把握する。

対象：会員（個人）

規模：会員個人を対象に2003年に実施した英語教育実態について質問紙調査を行う。英語教育の目的、必要性、英語教育の開始時期、到達目標、改善すべき点、教科賞、カリキュラム、クラスサイズ、授業での英語使用度など、前回の質問と同じ質問をすることで14年間の変化を考察し、CLILやESP、EAPの実施状況、外部英語検定試験の単位認定や入試への導入などについての新しい質問により、教員がどのように捉えているかを把握する。

成果：1981年より約10年に一度のペースで行ってきた日本全体の大学の英語教育の実態が明らかになり、今後の方針の足掛かりとなる。

## (2) 専門分野別の研究会活動（毎年継続事業）

大学英語教育学会の各支部にはそれぞれの地域の研究や教育の活性化と協力を意図して、専門英語教（ESP：English for Specific Purposes）研究会、英語語彙研究会、東アジア英語教育研究会などの研究会がある（48研究会）。各研究会はそれぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行っている。委員会はそれらの各研究会の活動の支援をする。

目的：各研究会専門分野の調査研究

対象：大学英語教育学会会員

規模：48研究会（北海道4、東北1、関東21、中部7、関西10、中国四国2、九州沖縄3）

成果：上記の活動により、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元などの成果が期待される。

## その他法人事業：

(1) 会議等 定例及び必要な場合には臨時の理事会、社員総会、運営会議、運営委員会、特別委員会等を開催し、必要な事業について検討を行う。本年度は社員選挙を実施する予定である。各支部では、支部総会、支部委員会等を開催し、支部の事業について検討を行う。

(2) 委託研究 公益財団法人日本英語検定協会から JACET に対する委託研究の申し出があり、1年間の研究を行うことになった。研究分野は大学英語教育・学術英語カリキュラムであり、委託研究課題名が「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム実態把握のための調査研究—本調査—」研究代表者は JACET 会長の寺内一が務めることとなる。

以上